

正の数・負の数（数の種類，大小，絶対値）解答と解説

1 **解答** (1) +12, -2, 0, 4, -20, 5 (2) +12, 4, 5 (3) -2, -20

(1) +12, -2, 0, 4, -20, 5

(2) +12, 4, 5

(3) -2, -20

2 **解答** (1) +2 > -3 (2) -7 < -2 (3) $+\frac{5}{8} > -\frac{7}{8}$ (4) $-1 < -0.01$

(5) $-7 < -3 < +5$ (6) $-\frac{3}{2} < -\frac{2}{3} < +0.1$

(1) +2 > -3

(2) -7 < -2

(3) $+\frac{5}{8} > -\frac{7}{8}$

(4) $-1 < -0.01$

(5) $-7 < -3 < +5$

(6) $\frac{2}{3} = \frac{4}{6}, \frac{3}{2} = \frac{9}{6}$ であるから

$-\frac{3}{2} < -\frac{2}{3} < +0.1$

3 **解答** (1) 18 (2) 3.2 (3) $\frac{13}{5}$ (4) $\frac{9}{4}$ (5) 25

(1) 18 (2) 3.2 (3) $\frac{13}{5}$

(4) $\frac{9}{4}$ (5) 25

4 **解答** (1) 8個 (2) 5個 (3) 4個

(1) 2つの数の間にある整数は

-4, -3, -2, -1, 0, +1, +2, +3

よって 8個

(2) $-\frac{11}{3} = -3.6\dots$ である。

よって, 2つの数の間にある整数は

-3, -2, -1, 0, +1

したがって 5個

(3) $-\frac{9}{2} = -4.5$ である。

よって, 2つの数の間にある整数は

-8, -7, -6, -5

したがって 4個

5 **解答** (1) 7個 (2) 8個

(1) 絶対値が3以下となる整数は

-3, -2, -1, 0, +1, +2, +3

よって 7個

(2) 絶対値が4以上8未満となる整数は

-7, -6, -5, -4, +4, +5, +6, +7

よって 8個